

# 起業融資 7年ぶり高水準

## 公庫1万7300件 昨年4〜12月

# 脱デフレで環境整う

脱デフレと景気回復に伴い、お金を借りて起業に踏み切る人が増えている。日本政策金融公庫の起業向け融資件数は2013年4〜12月期に7年ぶりの高水準に回復。信用保証協会による起業関連の保証件数も下げ止まり傾向が鮮明だ。お金の価値が高まるデフレ期には借金の負担が重くなるため起業に踏み出しにくかった。脱デフレの進展とともに起業しやすい環境が整いつつある。起業の増加は、日本経済の新陳代謝につながりそうだ。

国内の起業家の2割が利用する政策金融公庫の融資は、起業の動向を測る先行指標とされる。同融資の件数は13年4〜12月期に1万7304件と、前年同期に比べ14・3%増えた。06年4〜

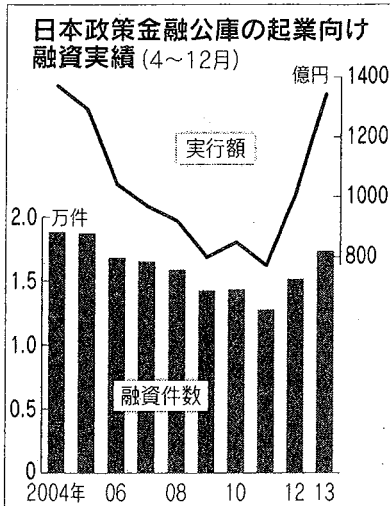
12月期(1万6843件)業だ。介護が必要な人を上回り、リーマン危機前の水準に7年ぶりに戻った。4〜12月期の融資金額も1343億円と8年ぶりの高水準だった。起業が目立ったのが介護施設の運営業や不動産

少子高齢化の中でも需要拡大が見込める分野で成長を目指す起業家が多い。景気好転に伴う取引の増加を見込んだ不動産関連の起業も1516件と32%増えた。

い。理容・美容業やマッサージ業など小口のサービス業への参入も起業件数を底上げした。女性の起業が前年同期に比べ7%増えるなど、起業家層の裾野も広がっている。起業家が民間金融機関からお金を借りる際に使う信用保証協会の保証承諾件数は13年4〜12月期に9223件だった。前年同期に比べ1%減だったものの、減少幅は11年度の11・6%、12年度の6・5%から縮小している。「飲食業など地に足のついた業種の起業が多

政府は昨年打ち出した成長戦略で、現在約5%の日本の開業率を英米並み(10%台)に引き上げる目標を掲げている。政府も1社あたり数百万円程度を補助する起業支援制度をつくるなど、開業率の増加に躍起になっている。民間金融機関による起業家への投融资が今後活発になれば、企業部門の活性化が進む。

い」(全国信用保証協会連合会)という。足元の長期金利は年0・6%程度。これに対し物価上昇率は年率1%を超えており、名目金利から物価上昇率を差し引いた実質金利はマイナスになっている。借入金の元利払いの負担が軽くなっていることを意味しており、起業を取り巻く環境は改善しつつある。



全銀協会会長「中小向け貸し出し反転」  
退任控え会見

全国銀行協会の国部毅会長は13日の記者会見で、「中小企業向け貸し出しが反転するなど日本経済の様々な面でプラスの影響が表れた」と昨年4月の就任以降の1年間を振り返った。日銀が昨

年4月に打ち出した「2年程度で2%」の物価上昇シナリオについて「ほぼ日銀の想定通りに進んでいる」と評価。日銀の目標達成には「企業業績の改善に合わせた賃金の上昇や消費の増加といった前向きな循環」が必要になるとの認識を示した。全銀協会会長は4月1

日、三菱東京UFJ銀行の平野信行頭取に交代する。任期は1年。仮想通貨ビットコインに関して「実態は依然として不明な点が多い」と指摘した。